

自己評価および外部評価結果

事業所名 **グループホームにんじん・上野原**

自己	外部	項目	自己評価(実践状況)		外部評価	
			ユニット名(ピーチ)	ユニット名(柚子)	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>						
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	法人及び事業所の理念、目標をフロアに掲げ、管理者・職員共々その理念等を共有、実践している。	法人及び事業所の理念、目標をフロアに掲げ、管理者・職員共々その理念等を共有、実践している。	法人の理念をフロアや事務所に掲示し、1年ごとに目標の見直しを行なっている。事業所全体で共有しグループホームでは毎月のミーティングで職員同士再確認し入居者が日常生活の中で個人の楽しみを増やし生活を豊かにすることを目標に支援が行われている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	夏祭りや認知症カフェを通して、地域の方々とも交流を図っている。また地域の自治会に加入しており、祭りへの招待を受け、参加している。地域の中学・高校生がコンサート開催やイベントにボランティアとして参加する等の交流がある。	夏祭りや認知症カフェを通して、地域の方々とも交流を図っている。また地域の自治会に加入しており、祭りへの招待を受け、参加している。地域の中学・高校生がコンサート開催やイベントにボランティアとして参加する等の交流がある。	日常的にデイサービスの利用者との交流があり、地域の行事には積極的に参加し事業所の行事にもチラシで案内をして交流を図っている。認知症カフェは毎月開催し参加者も増えている。事業所にはボランティアも含め月平均16~20名くらいの方が訪れている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	認知症カフェを毎月開催している。上野原市の広報紙やTwitter、チラシの配布を利用して告知を行っている。また地域で開催している長寿会へも参加して介護保険制度の説明や認知症予防体操等を行っている。	認知症カフェを毎月開催している。地域の回覧板等を利用して告知を行っている。また地域で開催している長寿会へも参加して介護保険制度の説明や認知症予防体操等を行っている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は2ヶ月に1回開催、活動の報告を行い、入居者様やご家族、地域の方々や行政の方とも意見交換して、サービスの向上に繋げている。	運営推進会議は2ヶ月に1回開催、活動の報告を行い、入居者様やご家族、地域の方々や行政の方とも意見交換して、サービスの向上に繋げている。	運営推進会議は、奇数月の最終週の水曜日か土曜日に入居者も参加しフロアで開催している。事業所からの報告は、行事や日常の様子などパワーポイントを使ってわかりやすく説明している。会議終了後は家族会を行なっている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	上野原市が運営する地域ケア会議や認知症ネットワークへ参加し、地域と協力関係を構築している。市から入居相談を受ける等、協力関係を構築している。	上野原市が運営する地域ケア会議や認知症ネットワークへ参加し、地域と協力関係を構築している。市から入居相談を受ける等、協力関係を構築している。	市が開催する地域ケア会議に年3回参加し意見交換の場となっている。毎月開催している「はるカフェ」にて地域との協力関係を築き、市からは、緊急で入所の相談、事業所からは、生活保護についての相談や介護保険の更新手続きなどあり、市との連携が取れている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	「身体拘束をしないケアの実践」については職員も十分理解し、積極的に取り組んでいる。危険が伴う事が予測される行動については観測して対応を考えている。また必要に応じてご家族や医療関係者と検討して安定した生活が送れる様に支援する。	「身体拘束をしないケアの実践」については職員も十分理解し、積極的に取り組んでいる。危険が伴う事が予測される行動については観測して対応を考えている。また必要に応じてご家族や医療関係者と検討して安定した生活が送れる様に支援する。	毎月第4金曜日に事業所内の勉強会を実施しているが、年2回は研修委員会が中心となり身体拘束防止の勉強会を行なっている。職員は、年1回自己チェックシート(15項目)で見直しを行なっている。入居者の表情を見て支援することが大切であり、ボディタッチの効果もあることを知りケアの実践に活かしている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることがないように注意を払い、防止に努めている	当法人が作成したマニュアルの活用や、上野原市高齢者虐待対応支援マニュアルを元に、虐待の防止に取り組んでいる。	当法人が作成したマニュアルの活用や、上野原市高齢者虐待対応支援マニュアルを元に、虐待の防止に取り組んでいる。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護についての理解度は向上してきているが、まだ不足している部分も多いと感じている。勉強会を実施し、その主旨などについての理解を深め、共有を図る。	権利擁護についての理解度は向上してきているが、まだ不足している部分も多いと感じている。勉強会を実施し、その主旨などについての理解を深め、共有を図る。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約については管理者や計画作成担当者が、十分に説明を行い、疑問などがあればその場で説明し理解、納得を得ている。	契約については管理者や計画作成担当者が、十分に説明を行い、疑問などがあればその場で説明し理解、納得を得ている。		

自己評価および外部評価結果

事業所名 **グループホームにんじん・上野原**

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価(実践状況)		外部評価	
			ユニット名(ピーチ)	ユニット名(柚子)	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	2ヶ月に1回運営推進会議と意見交換会(家族会)を実施し直接意見を聞く機会を設けている。法人全体として毎年利用者アンケートの実施をしている。面会や電話等でご家族の要望をうかがうなど、個別対応しながら利用者様の意見を反映させ、QOL向上に繋げている。	2ヶ月に1回運営推進会議と意見交換会(家族会)を実施し直接意見を聞く機会を設けている。法人全体として毎年利用者アンケートの実施をしている。面会や電話等でご家族の要望をうかがうなど、個別対応しながら利用者様の意見を反映させ、QOL向上に繋げている。	運営推進会議時の家族会と、年1度の利用者アンケートの実施から家族の意見を聴く機会を設けている。入居者の「たまにはカップラーメンが食べたい」との意見で「きつねうどん」を用意するとスープまで飲み干しておいしかったと喜んだ。どんな些細な事でも可能なかぎり出来ることはすぐに対応するよう努めている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月事業所内ミーティングの開催、日常の面接や賞与月の面接を行い職員の意見を聞く機会を設けている。その中で、事業所でも対応できる課題は管理者会議で共有し、法人全体の問題として取り上げる課題等はリーダー会議や事業所長会議に挙げるなどして反映させている。	毎月事業所内ミーティングの開催、日常の面接や賞与月の面接を行い職員の意見を聞く機会を設けている。その中で、事業所でも対応できる課題は管理者会議で共有し、法人全体の問題として取り上げる課題等はリーダー会議や事業所長会議に挙げるなどして反映させている。	職員会議を年1回行う。開催前に議案書を各自記入している。職員は、いずれかの委員会に属し意見を出している。スマイル委員会は、レクリエーションの計画を立案し話し合いで決定されれば実施となる。また、年2回は施設長とのカウンセリングがあり年度末は事業所内での移動を含めた意向調査が行われる。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職場環境・条件については法人規定に法って対応している。年に数回は管理者と面談する機会があり、その中で各職員からの意見を聞き、安定して就労出来る様に努めている。	職場環境・条件については法人規定に法って対応している。年に数回は管理者と面談する機会があり、その中で各職員からの意見を聞き、安定して就労出来る様に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	新人職員には知識・技能が習得できる様に計画的な教育を実施している。法人内で定期的な研修会や勉強会の開催を行っている。	新人職員には知識・技能が習得できる様に計画的な教育を実施している。法人内で定期的な研修会や勉強会の開催を行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域ケア会議や作業部会などの会議や勉強会に積極的に参加し、同業者との交流やサービスの質の向上に努めている。また、他の福祉施設で開催しているアニマルセラピーや芝桜祭り等へも参加している。	地域ケア会議や作業部会などの会議や勉強会に積極的に参加し、同業者との交流やサービスの質の向上に努めている。また、他の福祉施設で開催しているアニマルセラピーや芝桜祭り等へも参加している。		
<b>II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>						
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前の契約の段階でご本人だけでなく、ご家族様、状況によっては病院や市役所など関係者から要望を聞き、安心して暮らせる関係作りに努めている。また、管理者・計画作成担当者・ユニットリーダー・居室担当職員が協力しながら積極的にコミュニケーションを図っている。	入居前の契約の段階でご本人だけでなく、ご家族様、状況によっては病院や市役所など関係者から要望を聞き、安心して暮らせる関係作りに努めている。また、管理者・計画作成担当者・ユニットリーダー・居室担当職員が協力しながら積極的にコミュニケーションを図っている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居に関する受付や申し込みの段階でご家族様より困っていることや要望を聞き取りながら関係作りに努めている。また、居室担当職員を紹介するなど、安心して頂ける様に努めている。	入居に関する受付や申し込みの段階でご家族様より困っていることや要望を聞き取りながら関係作りに努めている。また、居室担当職員を紹介するなど、安心して頂ける様に努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	受付や申し込みの段階で、要望されている支援の優先順位を話し合うなどしている。他のサービスを含めてトータルな対応に努めている。	受付や申し込みの段階で、要望されている支援の優先順位を話し合うなどしている。他のサービスを含めてトータルな対応に努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	入居者様のできることはして頂く等、有する能力の維持向上に努めるとともに、職員と一緒に家事動作を行うなどしている。また居室担当を中心にその人らしく生活できる様にケアを実践して関係を築いている。	入居者様のできることはして頂く等、有する能力の維持向上に努めるとともに、職員と一緒に家事動作を行うなどしている。また居室担当を中心にその人らしく生活できる様にケアを実践して関係を築いている。		

自己評価および外部評価結果

事業所名 **グループホームにんじん・上野原**

自己	外部	項目	自己評価(実践状況)		外部評価	
			ユニット名(ピーチ)	ユニット名(柚子)	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族が来所しやすい様、イベントや日常の様子を定期的にご連絡を行っている。来所時に日常の様子を伝えケア方法を一緒に検討する場を設けている。	ご家族が来所しやすい様、イベントや日常の様子を定期的にご連絡を行っている。来所時に日常の様子を伝えケア方法を一緒に検討する場を設けている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの方々にも施設に来て頂くよう、イベント等を通じ広報するほか、可能な限りの外出支援に努めている。 デイサービスや小規模多機能等と併設している為、地域の知り合い、子供時代の知人等と交流する機会がある。	馴染みの方々にも施設に来て頂くよう、イベント等を通じ広報するほか、可能な限りの外出支援に努めている。 デイサービスや小規模多機能等を併用している為、子供時代の知人等と交流する機会がある。	地域とのつながりを重要視し地域の行事(正月の獅子舞、ひな飾りの見学、盆踊り)など積極的に参加している。家族の面会は多い。ほぼ毎日面会がある家族や入居者を旅行に連れて行く家族もある。馴染みの場所を確認して昔働いていた職場を見学に行った入居者もいる。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずにご利用者が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者様の性格や行動パターン等を把握し、入居者様同士の関係にも目を配っている。また複数の入居者様と共に一緒に作業をする等、入居者様がお互いに関わり合える環境整備に努めている。	入居者様の性格や行動パターン等を把握し、入居者様同士の関係にも目を配っている。また複数の入居者様と共に一緒に作業をする等、入居者様がお互いに関わり合える環境整備に努めている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居される等して契約が終了した元入居者様に対しても、必要に応じてフォローしている。	退居される等して契約が終了した元入居者様に対しても、必要に応じてフォローしている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>						
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常のケアの中で、積極的にコミュニケーションをとり入居者様の意向を把握するよう努めている。 ご本人の意向を聞き取るのが難しい場合は、ご家族様とよく話し合いを行い、入居者本位のケアが提供出来る様になっている。	日常のケアの中で、積極的にコミュニケーションをとり入居者様の意向を把握するよう努めている。 ご本人の意向を聞き取るのが難しい場合は、ご家族様とよく話し合いを行い、入居者本位のケアが提供出来る様になっている。	「入居者本位」が前提にあり、アセスメントの際本人から意向を聞いている。聞き出せない入居者は、家族からの聞き取りや日常会話の何気ない言葉から何をしたいのか何を望んでいるのかなどを探り、入居者の意向に添った支援に心掛けている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居者様の生活歴や趣味・嗜好などの把握に努め、コミュニケーションの中でその方の意向を尊重したケアを実施している。また居室には馴染みの家具や写真、アルバムなどを置いて頂いている。	入居者様の生活歴や趣味・嗜好などの把握に努め、コミュニケーションの中でその方の意向を尊重したケアを実施している。また居室には馴染みの家具や写真、アルバムなどを置いて頂いている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	個人各自が、自由に過ごして頂く時間を設けている他、デイサービス等の利用者様と一緒に体操なども実施し、心身状態や有する能力の現状把握に努めている。	個人各自が、自由に過ごして頂く時間を設けている他、デイサービス等の利用者様と一緒に体操なども実施し、心身状態や有する能力の現状把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎月スタッフでのミーティングを開催し、入居者様の現状について情報共有を図ると共に、必要に応じて本人様やご家族様とも話し合っている。その結果、現状に即した介護計画を作成している。	毎月スタッフでのミーティングを開催し、入居者様の現状について情報共有を図ると共に、必要に応じて本人様やご家族様とも話し合っている。その結果、現状に即した介護計画を作っている。	職員のミーティング時に計画の定期的な見直しを行う。また、変化があればスタッフ全員で話し合い気づいたことなどの情報交換を行う。主治医や看護師、家族から意見を聞き、入居者の(している事、したい事、少し頑張れば出来る様に成る事)可能性を目標に介護計画の作成を行なっている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケア記録表を作成し日々の様子を記入、観察し、日々の申し送りや会議を活用し職員間で情報共有を図りながら計画の見直しを行っている。	ケア記録表を作成し日々の様子を記入、観察し、日々の申し送りや会議を活用し職員間で情報共有を図りながら計画の見直しを行っている。		

自己評価および外部評価結果

事業所名 **グループホームにんじん・上野原**

自己	外部	項目	自己評価(実践状況)		外部評価	
			ユニット名(ピーチ)	ユニット名(柚子)	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご本人の意思を尊重し、併設している通所介護事業所や小規模多機能型居宅介護事業所にも入居者様をお連れし体操やゲームをする等、入居者様本位のケアを心がけている。	ご本人の意思を尊重し、併設している通所介護事業所や小規模多機能型居宅介護事業所にも入居者様をお連れし体操やゲームをする等、入居者様本位のケアを心がけている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	夏まつりや発表会など、可能な限り地域の行事にも積極的に参加していただき、有する能力を維持できるよう支援している。	夏まつりや発表会など、可能な限り地域の行事にも積極的に参加していただき、有する能力を維持できるよう支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるよう支援している	入居者様が受診するときは介護サマリーを作成するなど、一人ひとりのかかりつけ医とも連携を取りながら適切な医療が受けられるよう支援している。	入居者様が受診するときは介護サマリーを作成するなど、一人ひとりのかかりつけ医とも連携を取りながら適切な医療が受けられるよう支援している。	入居前からのかかりつけ医に受診の際は、日頃の様子を家族に伝え受診を行なっている。受診後の様子も家族から聞きケア記録に記入しスタッフ全員が共有している。必要に応じて事業所への往診も可能で状態によっては訪問看護の利用が可能になっている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるよう支援している	毎朝看護師を交えたミーティングを実施、入居者様の体調管理に努めると共に、日中も利用者様に特変などが生じた場合は看護師と共にケアに当たっている。	毎朝看護師を交えたミーティングを実施、入居者様の体調管理に努めると共に、日中も利用者様に特変などが生じた場合、看護師と共にケアに当たっている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入退院時のみならず、途中でもお見舞いに行くなどしながら、病院関係者とも情報交換を行っている。協力病院とも、他事業所で関連がある為、常日頃より関係作りを行っている。	入退院時のみならず、途中でもお見舞いに行くなどしながら、病院関係者とも情報交換を行っている。協力病院とも、他事業所で関連がある為、常日頃より関係作りを行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ができることを十分に説明しながら方針を共有し、地域との関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入所時に看取り介護の説明を行っている。利用者様の状態により医療(看護師や担当医)と連携をとりご家族へ説明を行い、ご本人やご家族の意向に沿った終末期の対応を行っている。(10件の看取り介護を実施)	入所時に看取り介護の説明を行っている。利用者様の状態により医療(看護師や担当医)と連携をとりご家族へ説明を行い、ご本人やご家族の意向に沿った終末期の対応を行っている。(10件の看取り介護を実施)	入居時、終末期の看取りについて家族・本人に事業所の意向を説明している。日頃から委員会が中心になりマニュアルに沿って勉強会を実施している。主治医や看護師の意見を参考に、エアマットの必要性や食事の形態の見直しなど必要に応じて支援するが、あくまで本人・家族の意向に沿ったものとしている	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時の対応マニュアルを整備し、年間スケジュールを組んで勉強会を実施している。まだ経験の浅い職員もおり、全職員を対象にした訓練・勉強会を継続して実施したい。	急変時の対応マニュアルは整備されているが、まだ経験の浅い職員も居る。経験の浅い職員をはじめ、全職員を対象にした訓練・勉強会を早急を実施したい。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的に火災や地震等を想定した避難訓練を実施している。	定期的に火災や地震等を想定した避難訓練を実施している。	事業所の立地状況から地震と火災にリスクが高いと考え年2回の避難訓練を実施している。1度は昼間デイサービス、はるカフェの利用者も参加し、避難経路の確認、初期消火などの訓練を行う。その他夜間を想定しての訓練や防災用品としてヘルメット、担架、おんぶひもなどの用意もある。	
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>						
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	常に入居者様の声に耳を傾け、丁寧な声掛けや言葉使いをするよう心がけている。写真の掲載等の利用は個別に同意書を頂くことで了承を得て行っている。	常に入居者様の声に耳を傾け、丁寧な声掛けや言葉使いをするよう心がけている。写真の掲載等の利用は個別に同意書を頂くことで了承を得て行っている。	入居者一人ひとりの状態をしっかり把握し日常的な言葉遣いや声のかけ方に注意している。プライバシーを守るための勉強会や職員の入職時にはしっかり指導し入居者の尊厳の保持に心がけている。個人ファイルはキャビネットに保管し施錠している。	

自己評価および外部評価結果		事業所名	グループホームにんじん・上野原			
自己	外部	項目	自己評価(実践状況)		外部評価	
			ユニット名(ピーチ)	ユニット名(柚子)	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	入居者様の様子に目を配り、要望を傾聴するようにしている。また意思表示が困難な利用者様は表情から思いをくみ取る様にしている。	入居者様の様子に目を配り、要望を傾聴するようにしている。また意思表示が困難な利用者様は表情から思いをくみ取る様にしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一日のスケジュールは大方決まっているが、基本的には入居者様のペースを尊重している。	一日のスケジュールは大方決まっているが、基本的には入居者様のペースを尊重している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	季節に合った洋服を着られるよう支援すると共に、季節の変わり目にはその時季にあった洋服等を用意して頂けるよう家族にも話している。	季節に合った洋服を着られるよう支援すると共に、季節の変わり目にはその時季にあった洋服等を用意して頂けるよう家族にも話している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	毎月1回はイベント食、おやつ作りを行っている。食事で季節感を感じて頂ける様に支援している。また準備や片付け等も出来る限り一緒に行っている。	毎月1回はイベント食、おやつ作りを行っている。食事で季節感を感じて頂ける様に支援している。また準備や片付け等も出来る限り一緒に行っている。	季節にあったイベント食や毎月実施するお誕生会のケーキ作りは好評である。入居者の意見や要望は取り入れている。昼食は、副食のみ仕出し弁当を利用しているがお年寄り向けの食べやすい献立となっている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量、水分の確保については日々記録をとっている。水分については毎食時のみならず、10時、15時にお茶を提供している。習慣や好みに応じた支援を実施している。	食事量、水分の確保については日々記録をとっている。水分については毎食時のみならず、10時、15時にお茶を提供している。習慣や好みに応じた支援を実施している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	基本的に毎食後口腔ケアを実施している。自分でできる方には見守りや声掛けで行って頂いている。介助が必要な方にはその人に応じた介助を施している。	口腔ケアもできる方には見守りや声掛けで行って頂いている。介助が必要な方にはその人に応じた介助を施している。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	各人のADLに合わせてオムツや紙パンツ等を使い分けている。またアセスメントを行い、排泄時間やパターンを把握してトイレ誘導を行い自立できる様に支援している。	各人のADLに合わせてオムツやリハパン等を使い分けている。またアセスメントを行い、排泄時間やパターンを把握してトイレ誘導を行い自立できる様に支援している。	入居者のADLに合わせた個別支援を行ない昼間は出来る限り声掛けでトイレ誘導を行なっている。夜間はポータブルトイレを使う入居者もいる。介護度の高い入居者が多いが常時オムツ使用の入居者は4人ほどである。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	入居者様にあった運動を取り入れたたり、こまめな水分摂取を促し便秘の予防に努めている。便秘などが起こってしまった際には、看護師とも協力し下剤を服用して頂いたりしている。また排便の有無も毎日チェック、記録している。	入居者様にあった運動を取り入れたたり、こまめな水分摂取を促し便秘の予防に努めている。便秘などが起こってしまった際には、看護師とも協力し下剤を服用して頂いたりしている。また排便の有無も毎日チェック、記録している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴時間帯は設定しているが、極力入居者様の意向を尊重し入浴をして頂いている。また入浴介助に関してはできる事はご自身で頂くように心がけている。	入浴時間帯は設定しているが、極力入居者様の意向を尊重し入浴をして頂いている。また入浴介助に関してはできる事はご自身で頂くように心がけている。	基本的に入浴は毎日(時間帯の制限はあるが)可能である。一人が最低でも週2回は入浴するよう心がけている。入浴拒否の入居者は、時間や日を変える等して無理のない入浴支援に心がけている。入浴剤やゆず湯、ヒノキ湯などを使って入浴を楽しんでもらっている。	

自己評価および外部評価結果

事業所名 **グループホームにんじん・上野原**

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価(実践状況)		外部評価	
			ユニット名(ピーチ)	ユニット名(柚子)	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	入居者様のペースで過ごして頂いている。人によっては昼寝をしたり、マイペースで寛いで頂いている。夜間眠りの浅い方に対しては、その様子をご家族に話しまた看護師とも相談の上、入眠導入剤を使用することもある。	入居者様のペースで過ごして頂いている。人によっては昼寝をしたり、マイペースで寛いで頂いている。夜間眠りの浅い方に対しては、その様子をご家族に話しまた看護師とも相談の上、入眠導入剤を使用することもある。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	入居者様の服薬については特に注意を払い、管理、服用して頂いている。一人ひとりの服薬についてもしっかりと飲み込めた事を確認するように努めている。また状況の変化があった際には看護師とも連携を取るようになっている。	入居者様の服薬については特に注意を払い、管理、服用して頂いている。一人ひとりの服薬についてもしっかりと飲み込めた事を確認するように努めている。また状況の変化があった際には看護師とも連携を取るようになっている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	入居者様の趣味や嗜好の把握に努め、数人でゲームをしたり、できる方には洗濯物や清拭類をたたくで頂いている。また食事の準備や片付けなどをスタッフと一緒にしている。	入居者様の趣味や嗜好の把握に努め、数人でゲームをしたり、できる方には洗濯物や清拭類をたたくで頂いている。また食事の準備や片付けなどをスタッフと一緒にしている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけるように支援している	地域のイベントやドライブ、外食などのレクリエーションを実施している。ドライブでは市内のお花の名所や河口湖まで行く事を行っている。また日常では天気の良い日には散歩も行っている。	地域のイベントやドライブ、外食などのレクリエーションを実施している。ドライブでは市内のお花の名所や河口湖まで行く事を行っている。また日常では天気の良い日には散歩も行っている。	天気の良い日には散歩に出て近隣の方とあいさつや会話を交わしている。年に1度入居者の希望を聞いて個別レクリエーションを計画している。「自宅に帰ってみたい」「お花を見に行きたい」「外でお刺身を食べたい」「以前勤めていた職場の様子が見たい」等の希望があり個別に実施している。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	基本的に施設ではお金がお預かりしていない。入居者様によってはご自身のお金で買物などをする事の支援を行っている。	基本的に施設ではお金がお預かりしていない。入居者様によってはご自身のお金で買物などをする事の支援を行っている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	基本的には家族とのやり取りは職員が行っているが、要望のある入居者様には電話など、家族とのやり取りができるよう支援している。	基本的には家族とのやり取りは職員が行っているが、要望のある入居者様には電話など、家族とのやり取りができるよう支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用スペースには温度計や湿度計を備え、環境には配慮している。	共用スペースには温度計や湿度計を備え、環境には配慮している。	2ユニットの共有スペースがつながっているので広くゆったりとした雰囲気でも心地よく感じられる。加湿器も使われている。トイレは、5か所あり中でも広く車椅子でも十分に対応出来る広さである。浴室も座位が可能であればリフトを使って入浴が可能である。また居室が2階で日当たりよく、静かで落ち着いた雰囲気である。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共用スペースにはTVやソファを配置。皆様が悪い思いに過ごせるよう、配慮している。	共用スペースにはTVやソファを配置。皆様が悪い思いに過ごせるよう、配慮している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居者様の居室には以前自宅で使用されていた家財道具等を可能な限り置いて頂く等、本人様が心地よく過ごされるよう努めている。	入居者様の居室には以前自宅で使用されていた家財道具等を可能な限り置いて頂く等、本人様が心地よく過ごされるよう努めている。	居室には介護用ベット、洗面台、エアコン、収納タンスが備え付けてあり、個々の入居者が家で使い慣れたタンスやソファ、テーブルなどを持ち込み落ち着いた雰囲気になっている。仏壇を置いている入居者もいた。どの部屋も整理されてきれいになっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレや居室の位置がわかるよう名札等を付けている。また居室や廊下など、全面バリアフリーとなっており、入居者様の安全には充分配慮した建物になっている。	トイレや居室の位置がわかるよう名札等を付けている。また居室や廊下など、全面バリアフリーとなっており、入居者様の安全には充分配慮した建物になっている。		